

(1) 目標として設定した項目	取組の結果〔昨年度数値〕
<p>1 学校経営・組織体制</p> <p>① 学校経営計画に基づき、各教職員が自身の役割や目標達成のための具体的な手立てを自己申告書に記載し、校長面接等を通じて共有する。</p> <p>② 分掌主任や事業担当者が的確に進行管理を行い、業務を効率的に遂行する。</p> <p>③ 学校評価や授業評価などを活用し、的確に現状と課題を把握するとともに、学校運営の一層の改善を推進する。</p> <p>④ 学校経営計画の目標の達成に向けた各分掌等の評価を年3回実施し、現状と課題、達成状況等について学校運営連絡協議会などで報告する。また、学校運営連絡協議会の協議委員による提言や助言を、学校改善に活用していく。 【学校評価：協議員の評価100%〔75%〕】 【学校評価：入学満足度(生徒)90%〔88.1%〕】</p> <p>⑤ <u>生徒の学力を向上させ、進学指導に資する教育課程を再検討する。</u></p> <p>⑥ センター契約率を高めることで、効率的な予算執行を行う。また学事、徴収事務の定期的な点検・確認(執行状況の報告月1回)を実施する。 【契約集約率60%〔59.5%〕】</p> <p>⑦ 年3回の服務事故防止研修や業務点検等を行うことにより、個人情報の管理や体罰等の防止対策など、職員のコンプライアンスに係る意識を啓発する。</p> <p>⑧ 入学選抜において定時制との連携を強化し、入選事故の未然防止を徹底する。</p> <p>⑨ <u>「進学指導特別推進校」として、質の高い授業を創造するとともに、高い進路志望を実現する。</u></p> <p>⑩ 「東京都国際交流リーディング校」「海外学校間交流推進校」として、海外語学研修、長期短期の留学生の受入、次世代リーダー育成道場を活用した留学派遣、外国の学校との交流等を推進することでグローバル人材を育成する。</p> <p>⑪ 「Tokyo Metropolitan Global Education Network School for English Education (GE-NET EE)」として外部試験による生徒の4技能別英語力を把握し、オンライン英会話やJET、ALTを活用するなど指導方法を改善する。また、全校生徒の60%以上に、実用英語技能検定準2級相当の英語力を身に付けさせる。</p> <p>⑫ 「AIを活用した英語教育の充実事業」に取り組み、生徒の英語力向上を推進する。</p> <p>⑬ 「DXハイスクール」実施校として適切に事業を</p>	<p>1 学校経営・組織体制 【A】</p> <p>年間3回の自己申告面接を活用し、学校経営計画の進捗状況を書く教職員と管理職で共有してきた。また目標達成に向けた各分掌等の現状と課題について、様式を整備し、学校運営連絡協議会で年3回報告した。</p> <p>学校評価アンケートの回収率は生徒89.3%〔83.7%〕保護者68.4%〔69.9%〕とほぼ前年度並みであった。Classiでの回収となつてからは、紙ベースに比べて回収率が低くなっているが、効率的な集約が可能になる点、自由意見が多く記述される点は大きなメリットであるため、今後もこの方法を継続していきたい。</p> <p>学校評価における「入学満足度」の評価は生徒91.1%、保護者96.0%と高い数値となっている。さらに過去3年間の推移を見ると、生徒85.3%→88.1%→91.1%と順調に向上し、ようやく90%を超える数値となった。</p> <p>学事、徴収事務の定期的な点検・確認(執行状況の報告月1回)を実施した。契約集約率は昨年度を上回り目標達成まであと一歩であった。</p> <p>年間3回の服務事故防止研修を適正に実施したほか、調査書や指導要録については複数回の点検を実施し事故の防止に努めた。職員室のフリーアドレス化に伴うクリーンデスクは維持できている。</p> <p>「進学指導特別推進校」については進路指導の欄に詳述。「国際交流リーディング校」及び「海外学校間交流推進校」として、海外語学研修(アメリカ・サンディエゴ9日間)に46名が参加。次世代リーダー育成道場で1名が留学中。さらに今年度は「校内留学(Global Studies Program)」を実施、17名の生徒が参加した。東京都の海外派遣プログラムでは4名の生徒がエジプトコースに参加、成果発表を全校生徒の前で実施した。</p> <p>「GENET-EE」及び「AIを活用した英語教育」において生徒の英語学力は順調に向上しており、模試の結果等からも検証できる結果となった。英検準2級以上は3学年生徒の80%と目標を大幅に上回り、CEFR B1レベル以上も74%(昨年9.7%)と劇的な増加となった。</p> <p>「DXハイスクール」では適切に事業を展開し「情報Ⅱ」の選択者は微増となった。</p> <p>「総合的な探究」の方法を改変し、1年次にグループ探究、2年次に個人探究と、これまでとは逆のステップを踏む方向とした。今年度は経過期間のため1、2年ともにグループ探究となったが、発表方法を刷新</p>

- 展開し、「情報Ⅱ」選択者の増加を図る。
- ⑭ 理数教育強化のため、企業や大学等と連携して理数に興味・関心をもつ生徒の裾野を広げる。
 - ⑮ 「総合的な探究の時間」の指導方法を改善し、論文や発表会をより高い水準にレベルアップさせる。
 - ⑯ フリーアドレスの未来型職員室の利点を活用し、教員間のコミュニケーションを活発化、学年・分掌にとどまらない連携関係を強化した新たな働き方を推進する。
 - ⑰ 会議の時間を短縮するため、会議時間の上限を設定するとともに、ICTの効率的な活用に努め、紙資料を極力削減する。
 - ⑱ テレワーク、時差勤務等の新たな働き方を推進するとともに、教職員の超過勤務削減と年休取得を促進し、男性職員の育児休業取得を奨励する。
- 【1月あたりの超勤45時間超15人〔18.8人〕】

し、体育館でのポスター発表ではなく、各教室でのプレゼンにグレードアップした。

【数値実績】

- ア 学校運営連絡協議会の協議委員の「学校が良くなった」という評価100%（8人/8人）〔75%〕
- イ 学校評価アンケート保護者回収率68.4%〔69.9%〕
- ウ 学校評価「入学満足度」の肯定的評価の割合
生徒91.1%〔88.1%〕、保護者96.0%〔97.0%〕
- エ 1月あたりの超勤45時間超17.3人〔18.8人〕
- オ 契約集約率56.3%〔59.5%〕

- 2 学習指導
- ① ICTを活用し、アクティブ・ラーニングの手法などを取り入れた双方向授業をさらに推進し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。
【学校評価：ICT活用授業(生徒)95%〔90.7%〕】
 - ② 教科を横断した課題の見える化に取り組む。また、課題(宿題)の履行状態と目標の達成状況を把握し、課題の精選と縮減を図る。さらに、必達、上位、挑戦の段階に分けるなど、個々の生徒の状況に応じた課題の選択的付与を行う。
 - ③ 全教職員が協力して自習棟及び図書館を自学・自習の場として活用させ(年3回程度)、学習する集団づくりを推進し、授業外の学習時間を確保し、自学自習の習慣を確立させる。
【自主学習時間の取組】
- | | 平日 | 休日 |
|-----|--------------|--------------|
| 1年生 | 2時間 40%〔31%〕 | 4時間 30%〔13%〕 |
| 2年生 | 3時間 40%〔28%〕 | 5時間 30%〔17%〕 |
| 3年生 | 5時間 60%〔56%〕 | 6時間 85%〔81%〕 |
- ④ 教養教育を重視し、受験科目だけではなく、全教科・科目を満遍なく学習させる。
 - ⑤ 記述力・論述力を測る定期考査を実施するとともに、定期考査問題の共通化を推進する。
 - ⑥ 日々の教育活動において、統合型学習支援サービスを活用した教育活動に取り組むなど、オンラインの積極的活用・定着に取り組む。
 - ⑦ 多面的・多角的な評価に取り組み、ルーブリックに基づく、観点別学習評価を実践する。
【学校評価：評価基準の明示(生徒)90%〔82.1%〕】
 - ⑧ 生徒による授業評価(年2回)の結果等に基づき、授業改善に取り組む。
 - ⑨ 教員の相互授業参観(年3回以上)や他校の授業

2 学習指導 【B】

生徒による授業評価アンケートを年間2回、全生徒を対象に全科目で実施した。授業満足度の肯定的評価は74.6%〔72.7%〕と決して高いとは言えない数値である。1年生、2年生で肯定的評価が低く、学年が上がるにつれて高くなる。文理選択を2年生で実施しないために、不満を持つ生徒が一定数いることが自由記述から推測される。しかし2年生までは全科目を履修させる教養教育は学校の理念でもあるため、その方針とメリットを周知していく必要がある。

授業力向上研修を年間3回実施。特に2回目では、5教科に加え保健体育も実施。東京都教職員研修センターの指導主事を全科目に派遣してもらい、充実した研修を実施することができた。

教科主任会を月1回開催し、また模擬試験の結果分析を各教科で実施した。目標達成状況はある程度共有されたが、課題の精選にはさらなる改善が必要である。講習等では上位層向けと中下位層向けの両方を設定することができた。

生徒の自主学習時間は一昨年度劇的に増加した。それに比較するとここ2年間はやや減少しており、特に2学年の学習時間の少なさは問題である。部活動、学校行事の活発化の影響もあるが、今後取り組み強化の必要がある。3年生はさすがに例年並みに取り組んでおり、大学受験へのとりかかりの時期が今後の課題となる。

【数値実績】

- ア ICTを活用した授業
生徒83.6%〔90.8%〕 保護者83.2%〔82.9%〕
- イ 自主学習時間の取組み

	平日	休日

<p>見学等などにより、教員の授業力向上を図る。</p>	<table border="1" data-bbox="805 152 1457 271"> <tr> <td>1年生</td> <td>2時間 33% [31%]</td> <td>4時間 31% [13%]</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>3時間 15% [28%]</td> <td>5時間 8% [17%]</td> </tr> <tr> <td>3年生</td> <td>5時間 54% [56%]</td> <td>6時間 84% [81%]</td> </tr> </table> <p>ウ 評価基準の明示 生徒 83.8% [82.1%] 保護者 69.9% [71.0%]</p>	1年生	2時間 33% [31%]	4時間 31% [13%]	2年生	3時間 15% [28%]	5時間 8% [17%]	3年生	5時間 54% [56%]	6時間 84% [81%]
1年生	2時間 33% [31%]	4時間 31% [13%]								
2年生	3時間 15% [28%]	5時間 8% [17%]								
3年生	5時間 54% [56%]	6時間 84% [81%]								
<p>3 進路指導</p> <p>① データ分析に基づいた学習指導や進路指導により、学年分析会、模試分析会、出願検討会等を充実させ、高みを目指す進路指導を行う。</p> <p>② <u>国公立大学から難関私大、中堅私大等、生徒の学習状況に応じた適切な進路指導を行う。</u></p> <p>③ 進路講話、進路相談、オープンキャンパス、東京都立大学等との高大連携事業等を計画的に実施する。</p> <p>④ 卒業学年の担任団、新3学年の担任団及び進路指導部で年度末に進路指導引継ぎ会を行う。</p> <p>⑤ 進路講演会、学年集会、二者面談・三者面談、出願検討会、授業等、あらゆる機会を捉えて、難関校に挑戦する高い志を抱くように支援する。</p> <p>⑥ 保護者会において、進路情報の提供を行い、保護者の受験に対する意識を高めるとともに、<u>保護者面談または三者面談を実施（各クラス年1回以上）</u>することにより、家庭の進路希望・学習状況を把握し、保護者と協力して、学習指導・進路指導を行う。</p> <p>⑦ 進路指導部、学年による「進路だより」を月1回以上発行し、生徒・保護者の啓発、情報提供を行う。</p> <p>⑧ 進路指導部・講習委員会が中心となり、土曜特進講習、夏の学校、春の学校、実力テスト（各学年）、朝・放課後の補習講習、土曜講習、夏冬春季講習、特別講習等の実施に向け、早期の計画の策定及び生徒への周知を行い、学習する集団を形成する。</p> <p>⑨ 各教科会で効果的な講習内容を検討し、3年間を見通した講習計画を構築する。</p> <p>⑩ 探究学習を生かした総合型選抜を希望する生徒を対象に個別指導を実施する。</p> <p>⑪ 安易に現状の学力に見合った進路を選択し、受験科目を減らすことのないよう全員で支援する。</p> <p>【共通テストフル型受験者 130 名 [128 名]】 【共通テスト総合得点率 80%以上、受験者の 6%以上 [5.5%]】 【現役国公立大学合格者 80 名 [68 名]】 【早慶上理 GMARCH 現役合格者 300 名 [255 名]】</p>	<p>3 進路指導 【B】</p> <p>模試分析資料作成及び校内全体での情報共有、組織的な進路指導を経営方針の重点項目としている。昨年に引き続き、共通テスト自己採点データを用いた出願指導検討会を全員悉皆で実施した。また模試結果データを各教科で分析したのち学年集会を開催、教科及び進路指導主任から今後に向けた指導を実施した。</p> <p>昨年再締結した東京都立大学との高大連携協定に基づき、都立大副学長による講演、1学年全員による都立大学訪問等を実施した。昨年から活発化した東京大学訪問を引き続き実施、本校卒業生でもある東大大学院教授による特別講演を聴講した。</p> <p>昨年課題が表面化した三者面談は今年度重点目標とし、進路指導部が学年に時期を指定して実施を徹底した。保護者会では全ての学年に進路指導主任が出席し、保護者の意識啓発に努めた。</p> <p>国公立大学現役合格者は昨年大幅に増加した人数に比べると例年並みの数値となったが、その分、早慶の合格者が増加した。 総合型選抜は昨年度より希望者に個別指導を実施しており、昨年の6名から今年度は10名に増加した。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 進路情報提供による第一志望支援 生徒 89.6% [87.9%] 保護者 71.8% [70.9%]</p> <p>イ 進路希望調査（10月）における国公立大または国公立大・私立大希望者（私立専願以外）の割合 1年 72.3% [87.2%] 2年 58.6% [60.2%] 3年 50.0% [56.4%]</p> <p>ウ 共通テストフル型受験者数 136名 [128名] 共通テストフル型出願率 44.3% [42.5%] 総合得点率80%以上 受験者の5.0% [5.5%]</p> <p>エ 現役国公立大学合格者 49名 [67名] 早慶上理現役合格者 52名 [35名] GMARCH現役合格者数 203名 [216名]</p>									

<p>4 生活指導</p> <p>① HR活動、学年集会や全校集会等を通じて、「規範意識や公共心を育成」「思いやりの心といじめを許さない雰囲気の醸成」「命の教育の推進」に取り組む。</p> <p>② 基本的な生活習慣を確立させるとともに、「遅刻指導」「チャイム始業・チャイム終業」「挨拶の励行」を徹底する。</p> <p>③ <u>交通ルールを守らせ、登下校の際のマナー向上を図る。特に自転車通学者においては保険への加入及びヘルメットの着用を義務付ける。</u></p> <p>④ いじめのアンケートを年3回実施し、早期発見に努める。いじめが認知された場合には、学校サポートチームと連携し、対応に当たる。</p> <p>【学校評価：いじめへの取り組み(生徒)90% [88.0%]】</p> <p>⑤ 人権意識を高め、被害者・加害者とならないよう指導する。また、「SNS家庭ルール」作成に向けた保護者への啓発を行う。</p>	<p>4 生活指導 【B】</p> <p>いじめアンケートは各学年3回実施した。学校評価アンケートにおける「いじめ防止に対する組織的な取組」「体罰・暴言のない指導」「安全指導・防災教育の適切な実施」はいずれも昨年並みの高水準で推移している。</p> <p>校則の見直しの結果、今年度から頭髪規定を撤廃した。染髪する生徒はそれなりに増加したが、それが生活面や学習面に悪影響を及ぼすような兆候は見られなかった。</p> <p>自転車通学者へのヘルメット着用指導に関する課題が顕著である。次年度からは法令の改正による罰金が施行されることもあり、特に重要課題として位置付け必要がある。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 遅刻者数（1クラス1日平均） 1年 0.30人 [0.31人] 2年 1.06人 [0.71人] 3年 0.92人 [1.65人]</p> <p>イ 学校評価アンケートの肯定的評価の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ防止に対する組織的な取組」 生徒 85.1% [88.0%] 保護者 50.2% [49.7%] ・「体罰・暴言のない指導」 生徒 90.1% [92.4%] 保護者 72.1% [76.9%] ・「安全指導・防災教育の適切な実施」 生徒 87.6% [88.0%] 保護者 69.2 [70.3%]
<p>5 健康づくり等</p> <p>① コンディションレポートを導入、また登校時やホームルームにおいて、生徒の健康状態などの様子を観察し、日常的に声掛けを行う。</p> <p>② 学校における自殺予防教育を推進させるため、「SOSの出し方に関する教育」を推進する。</p> <p>③ <u>スクールカウンセラーと連携し、特別な支援が必要な生徒に対する支援を行う。また、1学年を対象とした全員面接を7月までに実施する等教育相談を充実させる。</u></p> <p>【学校評価：教育相談環境(生徒)90% [87.5%]】</p> <p>④ 発達障害のある生徒に対する支援方法について、東京都エリアネットワーク等を活用し、年間1回程度、校内研修を実施する。</p> <p>⑤ 体育の授業や特別活動、部活動などを通じて、基礎体力の向上に向けて計画的に取り組む。</p> <p>⑥ 教室・廊下・特別清掃区域の清掃を徹底し、日々、校内美化に努める。</p> <p>⑦ 避難訓練、救命講習などの体験的な訓練及び防災ブック「東京防災」、防災ノート、防災講演会など通して防災意識を啓発する。また、原則として1学年の1学期中に「東京マイ・タイムライン」を活用した指導を行う。</p> <p>⑧ <u>町田市の避難所指定に鑑み、地域や関係諸機関と</u></p>	<p>5 健康づくり等 【A】</p> <p>コンディションングレポートは各学期はじめに活用促進期間を設定しているが、生徒の利用は少数にとどまっている。</p> <p>支援を必要とする生徒情報をファイルサーバ上で共有できる体制を構築した。経過を適切に記入することの徹底が今後の課題となる。</p> <p>今年度よりスクールカウンセラー2名体制となり特別な支援を必要とする生徒に対して、よりきめ細かい支援が実施できた。全員面接は定期健康診断とともに実施することで4月中に終わることができた。</p> <p>避難訓練を4回実施、防災講演会を実施した。3月の総合防災訓練では、八王子市、消防署、警察、自衛隊に加え、企業の協賛も得ることができた。近隣自治会とともに避難所運営訓練を実施することで地域の皆様に本校の生徒との交流を経験してもらったことができたことは大きな成果であった。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 学校評価の肯定的割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教育相談の環境整備」 生徒 85.0% [87.5%] 保護者 64.8% [65.3%]

<p><u>連携した総合防災訓練を実施する。</u></p>	
<p>6 特別活動・部活動</p> <p>① <u>体育祭の開催を5月に移行し、合唱祭・文化祭・球技大会の四大大行事の新たなスケジュール計画を構築する。</u></p> <p>② 「切替えと集中」により、限られた時間を有効に活用する姿勢を身に付けさせる。学業と部活動・学校行事の両立に向けた努力を継続させるための支援を全教員で行い、心身ともにたくましい人間を育成する。 【学校評価：学習と特別活動の両立(生徒)80%〔72.7%〕】</p> <p>③ <u>生徒の主体的活動を支援し、ホームルーム活動・学校行事・委員会活動・部活動等の活性化を図る、また、協働の大切さや仲間と助け合いながら事を成し遂げる喜びなどを経験させ、コミュニケーション能力及びリーダーシップを育成する。</u> 【部活加入率 92%以上】(生徒)〔92.0%〕</p>	<p>6 特別活動・部活動 【A】</p> <p>体育祭が5月に移行したことにより、1学期前半の行事日程が飽和状態となった。特に中間考査を以て6月の合唱祭に向けた練習時間の確保が大きな課題である。以降初年度としては各実行委員会の生徒が奮闘し、何とか実施することができた。</p> <p>部活動も昨年度に引き続き活発化しており、加入率も上昇、目標値を上回った。バトントワリング部、テニス部が関東大会に出場するなど実績も伴っている。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 学校評価の肯定的割合 ・「学習と特活の両立(文武両道の実践)」 生徒 74.0%〔72.7%〕 保護者 76.9%〔81.8%〕</p> <p>イ 部活動加入率 93.5%〔92.0%〕</p>
<p>7 募集・広報活動</p> <p>① <u>中学生・保護者に本校の教育活動の周知のため、学校説明会、学校見学会、部活動体験、授業体験、出前授業、中学校訪問及び塾訪問等を積極的に実施し、募集・広報活動に努める。全教職員体制で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数を増やし、応募倍率の向上を図る。</u> 【学校見学会・説明会参加人数 4500名〔4097名〕】 【推薦に基づく選抜 2.0倍〔1.80倍〕】 【学力検査に基づく選抜 1.4倍〔1.17倍〕】</p> <p>② <u>ホームページの内容を充実させ、X・インスタグラムとともに情報発信を活性化させる。</u> 【HP等更新 300回以上〔346+80回〕】</p> <p>③ 中学生部活動体験・高校授業体験、出前授業を積極的に推進し、本校の教育活動を周知に努める。</p> <p>④ 塾対象の説明会を周知し、参加者数の向上を図る。 【50名〔23名〕】</p> <p>⑥ 全員で積極的に広報活動を展開し、文化祭等の来場者数の増加を図る。 【4500名〔3500名(台風のため1日公開)〕】</p> <p>⑨ 学校説明会等の動画を公開し、説明会に参加できなかった中学生・保護者の便を図る。</p>	<p>7 募集・広報活動 【A】</p> <p>学校見学会、学校説明会、部活動体験、授業体験、中学校訪問、出前授業等、あらゆる機会をとらえて積極的に広報活動を展開した。さらには文化祭での学校説明ブースの設置、XやInstagram等 SNS での情報発信を実施した。</p> <p>今年度の新たな取組として、生徒スタッフによる地域のお祭りへの協力、ダンス部や和太鼓部の参加等、生徒と地域との交流を活性化し町田高校を知ってもらおう取組を強化した。</p> <p>【数値実績】</p> <p>ア 学校見学会・学校説明会参加者 5568人〔4097人〕</p> <p>イ 推薦に基づく選抜募集倍率 1.78倍〔1.80倍〕</p> <p>ウ 学力検査に基づく選抜応募倍率 1.21倍〔1.17倍〕</p> <p>エ HP等更新回数 338+80回〔346+80回〕</p> <p>オ 塾対象説明会参加者 19名〔23名〕</p> <p>カ 文化祭来場者 約4793人〔3500人〕</p>